

2-B-4 北里大学東病院における在宅人工呼吸療法 —臨床工学技士の関わりを中心として—

北里大学東病院MEセンター部
瓜生伸一 内田有美 小林馨 白井敦史
北里大学医療衛生学部臨床工学
渡辺敏

在宅人工呼吸療法は、生命維持管理装置である人工呼吸器を患者宅で使用するため、各医療職から構成されるチーム医療として支援していくことが必要と考える。そのなかで臨床工学技士は、人工呼吸器に関する教育や保守管理を中心として重要な役割を担うようになってきている。北里大学東病院では、1987年より在宅人工呼吸療法を開始しているが、開始当初より臨床工学技士としての役割を検討し、現在では、在宅医療チームのなかでも重要な地位を占めるようになった。

1. 臨床工学技士の役割

北里大学東病院での在宅人工呼吸療法において臨床工学技士は、次のような役割を担ってきた。

1) 人工呼吸器の選択

在宅人工呼吸療法を希望する患者に対し人工呼吸器を選択する場合には、その患者に適応した人工呼吸器であるかどうかが重要である。そのため、人工呼吸器がそれぞれ持つ特性を十分に把握しながら、選択することが重要である。

2) 家庭環境の情報収集

在宅人工呼吸療法を実施する場合には、家庭環境に関する情報を収集することも重要である。家庭内でのコンセントの形状やアース端子の有無、電気容量などの電気設備や人工呼吸器の設置場所などを事前に調査し、必要であれば改修に向けてのアドバイスをすることも必要である。

3) 家族介護者に対する教育

在宅人工呼吸療法を実施する場合には、家族介護者に対する教育を確実に実施することが重要である。そのなかで臨床工学技士は、人工呼吸器の取り扱いおよびトラブルマニュアルの作成、人工呼吸器の取り扱い方法、トラブル時の対処方法などを中心に教育するが、家族介護者の理解度にあわせて確実にを行うことが重要である。

4) 人工呼吸器の保守管理

人工呼吸器の安全性、信頼性を維持し、なおかつ患者の安全を確保するためには、人工呼吸

器の保守点検を確実に行うことが必要である。定期的に患者宅を訪問し、人工呼吸器の使用時間を把握しながら、適切に保守点検することが重要である。

5) メーカーへのフィードバック

在宅人工呼吸療法は患者が主役であり、患者の立場に立って物事を考えることが重要と思われる。そのため、在宅人工呼吸療法を受けている患者およびその家族から得られた意見、要望などは非常に重要であり、どんな僅かなことでも在宅人工呼吸療法に反映させていくことが必要と考える。また、人工呼吸器に関することであれば、適切に医療機器供給会社（メーカー）へフィードバックしていくことが、よりよい在宅用の人工呼吸器への開発へと結びついていくものと考えられる。

2. 考察

在宅人工呼吸療法における人工呼吸器の選択、家庭環境の情報収集、家族介護者に対する教育、人工呼吸器の保守管理および医療機器供給会社（メーカー）へのフィードバックなど多岐にわたる臨床工学技士の役割は、在宅医療チームのなかでも重要な地位を占めるものと思われる。また、最近における在宅人工呼吸療法の普及から、臨床工学技士の活躍の場が拡がることが予想されるが、そのためには、在宅医療チームのなかでの臨床工学技士としての役割を明確にしながら、責任をもって関わっていくことが重要であり、なおかつ患者および家族とのコミュニケーションを、日頃から十分に保つことも重要と考えられた。

おわりに

北里大学東病院における在宅人工呼吸療法の経験から、臨床工学技士としての役割を報告したが、今後、在宅人工呼吸療法が普及するにともない、その役割はますます重要になってくると考えられた。